

「さざんか学習会」 ～人権について自由に語り合える場～

松山市市民部人権・共生社会推進課

1 さざんか学習会の概要

さざんか学習会とは、1996年に来住地区住民の有志により始まった人権学習会である。

来住ふれあいセンターと連携・協力しながら、誰でも自由に参加でき、人権について自由に語り合う場づくりを大切にしている。基本理念として「差別の現実から深く学び、差別をなくすために様々な立場の人が自由に意見を述べ合い、共に学び、交流し、そのことを通じて人権の尊さを一人ひとりのものにするために！」を掲げ、同和問題をはじめとした様々なテーマの人権学習に取り組んでいる。

現在のさざんか学習会は、7年間の休会を経て復活したものである。発足後、210回にわたりほぼ毎月開催していたが、会員の高齢化や参加人数の減少などにより、2016年に休会した。2023年に、さざんか学習会の当時のメンバーや来住ふれあいセンター館長の中で、「さざんか学習会を再開したい」という思いが自然と高まって復活し、現在は3～4か月に1回、地域住民や人権問題に関心のある方々が集まって語り合っている。

2 令和6年度の取組

	開催日	講師（敬称略）	テーマ
第1回	6月11日（火）	紙芝居大道芸人 しんじろう	大人も子どもも楽しめる紙芝居
第2回	9月24日（火）	河原学園校長 石川 達也	人権文化の花咲くまちづくり
第3回	12月10日（火）	①障がい者施設「ゆきどけ」職員 武田 正明 ②障がい者施設「ゆきどけ」施設長 菅 英雄	①高校生活1か月、「ゆきどけ」との出会いから ②「ゆきどけ」の方針について
第4回	2月25日（火）	人権・共生社会推進課主幹 栗田 秀樹	ファミリーシップ制度について

プログラムは、参加者の意見を参考に事務局で協議して、その時期に応じた人権課題を取り入れるように心掛けている。

3 成果と今後について

さざんか学習会では、意見や感想を参加者に発表していただく機会を必ず設け、各テーマに沿った活発な意見交換を行っている。課題としては、現在の参加者は、教職員や市職員のOBが多く、来住町の住民が少ないことである。一人でも参加者が増えるよう、広報活動に合わせて声掛けを行い、住民の参加を促していきたい。

「地域に、自由に人権について語り合える場がある」モデルケースとして、今後

も同和問題をはじめ、人権問題や社会問題、身近な生活上の問題等、幅広く学習できる場となるようにスタッフ一同努力し、人権について自由に語れる場にしていきたい。さざんか学習会に、そして久米地区に、熱あれ、光あれ。



【さざんか学習会】